

「TCK 空手道播磨チャレンジ大会・田中道場ユニバーサル空手道演武会」開催報告

第1回大会を2021年3月に開催した「TCK 空手道播磨チャレンジ大会・田中道場ユニバーサル空手道演武会」は、田中道場で汗を流す健常者と障がい者がともに演武会と交流試合に参加する試みです。新型コロナウイルスの感染拡大により、さまざまな行事や大会が中止や規模縮小されたことを受けて、少しでも空手道を愛好する青少年の活躍の場を広げたいという思いからの開催でした。

当日は全員で身体を動かし、その後、団体形の練習を行い、この日に審判の補助で来てくれた大学の空手道部員が形の指導をしながら、それぞれのチームにアドバイスをしてくれました。大会はとても穏やかな雰囲気の中で、出場者も保護者もみんなが笑顔で終えることができました。

当大会は、障がい者と健常者の垣根を取り払い、道場は同じでも練習のある曜日が違うために、普段はなかなか顔を合わせて一緒に稽古する機会をもたない彼らが、一堂に会して自らの技を披露する機会となっています。第4回大会は、2024年3月2日の開催を予定しています。前回以上に合同稽古や団体形の演武を通して、お互いの理解を深め、共生社会の実現に向けた活動にできればと考えています。

**TCK 空手道播磨 (TCK = ザ チャレンジド カラテ)**

平成8(1996)年9月、播磨養護学校(現・播磨特別支援学校)空手道部OBを中心に、勤労身体障害者体育館(現・障害者スポーツ交流館)にて開設。現在、本部道場を明石市二見町の田中道場に構え、支部として兵庫県立障害者スポーツ交流館、鈴蘭台支部(コープ鈴蘭台集会室)、姫路支部(城南公民館、ルネス体育館)に加え、兵庫県内の特別支援学校(休部を含め6校)空手道部にも広がっている。

過去3年はコロナ禍のためできていない行事もあるが、年に2回昇級昇段審査を実施、夏合宿、沖縄への遠征(10月25日の「空手の日」での演武や沖縄空手会館での合同稽古、チャレンジングパーソン大会への参加)など、活発な活動を続けている。

全空連主催の全日本パラ空手道競技大会は、富山県で開催された第1回大会から約20年にわたっても常に多くの会員が出場している。

2016年と2018年の世界パラ空手道選手権大会にも今在家翔太選手が出場し、メダルマッチ進一步手前の活躍をしている。

道場生たちは、自分自身の心の在処として、日々のリハビリとして、生涯スポーツとして、そして競技として空手道の稽古に取り組んでいる。

(寄稿/空手道播磨 師範 田中博之)



「空手道播磨」と「田中道場」の表札。



道場を開設した当時の練習の様子。



合同練習と「チャレンジングパーソン大会」が開催された沖縄空手道会館の前で記念撮影。



TCK空手道播磨チャレンジ大会・田中道場ユニバーサル空手道演武会の様子。